

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
司会	<p>○開会のことば</p> <p>池田委員は本日欠席であるが、委員の過半数が出席しているため、委員会成立である。</p>
	<p>1 調査・検討（進行 委員長）</p>
	<p>（1）上尾市不登校対策基本方針の検討</p>
	<p>①冒頭～「3 未然防止」まで</p>
事務局	<p>担当から説明 ※ 資料参照</p>
	<p><児童生徒支援シートについて></p>
伊藤副委員長	<p>・所定の様式（別添2、3）を進級、進学の際に引き継ぐと記されているが、事務局は、どこまでの送付を求めているのか。市内には多くの不登校児童生徒がいる。不登校児童生徒全員に、これらをあてはめると学校の負担にもなると思われる。</p>
事務局	<p>・様式（別添2、3）を作るだけでも、確かに学校の負担になると思う。本様式の当初の想定として、小学校から中学校への引継ぎであった。現在、学校独自に作成しているものを生かしながら、最終的には事務局が示した様式に統一できるようにしていきたい。</p>
伊藤副委員長	<p>・その旨を明確に記載した方がよい。基本方針が公開されて保護者等に示した時、このままでは、学校ごとに差が出るのが想定される。どの学校も共通に動けるようにシステムを構築してほしい。</p>
	<p>・様式（別添2、3）は、情報公開の対象となると思うので、それを考慮した形で学校に情報をおろしてほしい。</p>
事務局	<p>・引継ぎをすることを明確にして、具体的な対策（別紙等を活用）を列举しながら、方針を練り直す方向で進めていく。</p>
伊藤副委員長	<p>・案のとおり新たに作り直すとなると、形骸化する恐れがある。学校が作成した今までの様式を活用するなどして、進めていくことがよいのではないか。様式例として、学校が使用できるものにしてほしい。</p>
事務局	<p>・上尾市不登校対策基本方針の細かい内容については、今日の意見をもとに再考していく。</p>

遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・支援シートとは別に、小学校は教育支援プランA・Bを作成しているが、どこまで中学校に送付しているのか。中学校の先生は、支援シートに書かれている内容を重要視している。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・支援シートについて、要因はいじめが関係しているかを記載するとよい。 ・支援情報として役に立つのは、効果的な支援や不調に終わった支援の情報を引き継ぐ必要がある。引き継ぐ者が、本当に知りたい内容について埋もれないように気を付ける。 ・不登校、生徒指導、特別支援教育の3つを一括して支援できることが望ましい。教育相談コーディネーターとして不登校、生徒指導、特別支援教育に関わることも一つの方策である。 <p><前文について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の視点としてキャリア教育を入れ込むなど、最新の情報をもとに、内容をアップデートするよい。 ・「休養」とは心の自由を与えることである。ただ休ませることは支援ではない。この期間が意味あるようにするには働きかけが必要である。
遠藤委員	<p><不登校児童生徒の居場所について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の居場所づくりについて、上尾市文化センター内の関連施設を活用している子供もいる。学校と関連施設との話合いや情報提供の場を設けることも必要ではないか。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所は「自由であるが、家庭より少し緊張するくらいの場所」が良い。この空気感をどのように整えるかが重要である。 ・不登校児童生徒は、友達と時間の制限なく共に過ごしたい性質がある。周囲の大人が、上手に介入することが大切である。子供の心に自由を与えるためには、子供の要望に瞬間的に応じることが求められる。大人が積極的に働きかけるだけでは、進まない。
吉永委員	<p><基本方針全体について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針の文言を分かりやすく変更してもよいと思う。様式（様式2）などの書式について、正式な様式があった方がよいのなら、情報公開に耐えるものなど、あらゆるものに対応できるものにしていく必要がある。これらのことを検討できるのなら、検討した方がよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよいものをつくるために、今後検討していく。

小林委員長	<p><連携について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒に関わる情報について、高等学校と大学の連携は実施できている。本人や保護者が入って実施されることもある。
石井英委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した取組を通して将来の社会的自立に向けた生活習慣づくりを推進するとあるが、具体的にどのようなものを指しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特に家庭自体に支援が必要なケースについては、民生委員や市の担当部局など支援をしている。それらを併せてして地域と表現している。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中のキャリア教育として、児童生徒に向いている職業を調べる授業もある。現在は職業も多様化しているため、職業に関わるプロフェッショナルな人を地域から探し、児童生徒に説明していただくことは効果的である。このような視点からも地域との連携が重要である。
青木委員	<p><生活習慣づくりについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどのようなことをイメージして生活習慣づくりをすればよいのかなど、この項目が指すものを明確に示すことが大切である。
村田委員	<p><ICT活用について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターに通所している子供たちは、書字の課題などが見られる。学校や個人によって、課題は異なるが、指導におけるICT活用が進むと、授業参加の可能性が高まる。支援の差を小さくするための方策として、ICTに係る取組などを方針に取り入れてもよいのではないか。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校において、書く活動が減り、聞く活動や見る活動が増えた。「発達障害の子供たちの行動が改善された」といった報告もある。しかし、活動の制限により、人間関係の不得手さが表面化しにくくなった影響もあり、根本から治っているということではないはずである。
事務局	<p>②「4 段階的対応」～「5 学校内の組織体制」まで 担当から説明 ※ 資料参照</p>
波瀾委員	<p><早期支援の必要性について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期支援のための出欠席等の管理について、早期発見のためには、小学校低学年での観察が重要となることも多い。該当児童の集団の中での過ごし方から特性を感じ取れるように教師の力量を高める必要がある。欠席が始まる前からできる支援があるはずである。

小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷市の取組では、月3日欠席から報告させていた。その報告を基に市教委が確認を行うことで、欠席している本人や保護者と関わりをとることにつながる。この声かけで約1割減少させることができる。
遠藤委員	<p>＜教職員のバックアップ体制について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が若返っていることもあり、児童の特性も正確に理解できていない教職員もいる。また、どのように子供や保護者に関わっていいか、分からず困っている教職員もいる。教職員のバックアップ体制の一例を上尾市不登校対策基本方針に載せることも必要である。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父市では、教職員のバックアップとして、保健師が活動していた。保健師は小学校までの生育をよく知っている。どのようにつなげるかは課題となる。川崎市では、子供を知る体制を新たに構築している。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・川口市では、夏季休業中に保健師との情報交換会を実施して、地域で対応できるように工夫していた。
伊藤副委員長	<p>＜校内体制について（不登校対策推進コーディネーター・チーム支援）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策推進コーディネーターについて、中学校では教育相談主任が中心となって週1回情報交換している。あえて、ここで、不登校対策推進コーディネーターという分掌を設定した理由は何か。不登校対策推進コーディネーターを兼ねるとしたら、管理職なのか、教育相談主任等なのかを教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における不登校対策の中心者として、情報交換及び共有できる体制を強固にする立場として設定した。不登校対策推進コーディネーターについては、教育相談主任等を充てていくことを想定している。
青木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、管理職含めて教職員が15名であり、多くの教職員が主任を兼ねている。不登校対策推進コーディネーターを新たに分掌に設定することが有効なことなのかについては疑問を感じる。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策推進コーディネーターの名称及び機能について、まとめていただくことが必要である。特別支援教育・生徒指導・教育相談をセットするなど、会議を増やさないことも重要である。
伊藤副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・対応チームの組織についての表現として、「例えば」などの文言を入れて幅のある表現にした方が、学校として運用しやすい。

事務局	<p>③「6 保護者との連携・支援」～「8 教育委員会の役割」まで担当から説明 ※ 資料参照</p>
小林委員長	<p><民間施設等に関することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間施設に不登校児童生徒が出席した際の学校の出席扱いについての状況はどのようになっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の方向性について、御意見を受け賜りたい。今すぐ、決定は難しい状況である。次回以降に話し合いたい。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校支援については、民間の塾などでも開始している。
石井太委員	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査を実施しても、中学生段階では、支援をつなぐ施設がない状況がある。中学校から高等学校へ上手くつなぎたい。次のステップへ進めるための改善ができればと感じている。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーゾーンの児童生徒への対応が一番困難な事案である。
遠藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「手帳がほしいので、発達検査を受けたい。」「病院を紹介してほしい。」という保護者もいる。手帳なしで高等学校に進学しても、その生徒が困ってしまうことが多く、何とかしたい状況がある。
吉永委員	<p><連携における表記について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童福祉法に基づく要保護児童対策地域協議会や生活困窮者自立支援制度の仕組み等も活用」とあるが、要保護児童対策地域協議会や生活困窮者自立支援制度の仕組みを活用するという表現は違和感がある。文言を改めた方がよい。
池田委員 (事務局代読)	<p><児童生徒支援シート活用や関係機関等との連携の実際について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前任校で、児童支援シート、支援記録、児童引継ぎ資料を作成し、記録を残そうとしたが、継続することは難しかった。先生方は忙しいが、記録を残し、確実に引継げると児童生徒の支援がより充実する。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・連携という視点では、学校関係者は顔見知りで支援をつなぐことが多い。各校にある連携先などの支援情報を教育委員会に集めることも有効ではないか。

石井英委員	<p><保護者への情報提供・啓発について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校になった児童生徒の保護者はストレスを抱えるので、話ができる場があると良い。今後、上尾市PTA連合会が実施するようである。子供たちにとってよい環境を提供できることを目指すことを期待する。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育の保護者の会」は、支援がなくなることはないため、長期間継続する一方、「不登校支援の保護者の会」は、子が学校復帰すると脱退するなどして、長期間継続しない傾向にある。このような保護者の会は土日実施が多いが、公としてどのくらいできるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な施策として、今後啓発していく。
小林委員長	<p><相談充実のための職員研修について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターのスタッフの研修についてはどうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・困難なケースについて、外部講師によるスーパーバイズを受けている。適切な支援方法を教授していただくような研修を柱に実施している。 ・また、不登校に係る講演会を学校教職員対象で実施している。講師は、医師、大学の教授等を招聘している。その研修に職員も参加できる。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・私の経験上、月1回支援シート活用状況を確認することや、毎週事例検討会を行い、良くなった支援などを出し合うことは有益であった。特に有効だった支援を共有すると次の支援につながることも多く、対応力が身に付く。事例を読み込むことは大変重要である。教職員対象の研修をさらに増加させることも効果的である。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターでは、関係機関に出向いて、話を伺うような機会もある。外部機関の研修会について情報共有し、各自で参加している。
小林委員長	<p><児童生徒支援シートについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保管場所を工夫することで、先生同士のやりとりがスムーズになり、引継ぎも円滑になる。実際に実践している学校も多くある。 ・神奈川県南足柄市の取組について、効果があった事例を市で共有して取り組んだ。特に取り組んだ内容は、事例検討会である。その結果、1年間で不登校児童生徒を約半減させた。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・支援シートがあると教育センターの支援を検討しやすい。学校と保護者で共有して使用できるものになるとよいと思う。

小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県には、条例等で支援シートに記入する業務を明文化し、制度化している。参考になる取組だと思ふ。上尾市として、今後検討できるのであれば、前向きに検討してもよいと思ふ。 ・本日は、それぞれの視点から、御意見いただきまして、ありがとうございました。
事務局	<p>2 諸連絡</p> <p>今後の流れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上尾市不登校対策基本方針について、御意見があれば、事務局まで送付していただきたい。締切は10月28日（金）とする。 ・第2回の会議の日程等の確認 ・今回の意見を参考に基本方針の修正を行い、次回は最終調整としたいと考えている。
司会	○閉会のことば